

令和7年度

みやぎ高校生フォーラム

－ 平和な社会の実現に向けて、
私たちができること－

実施報告

目次

| | |
|---------------------------|----|
| プログラム | 2 |
| 事後アンケート | |
| 集計結果 | 5 |
| グループディスカッションで出された意見 | 14 |

第14回 みやぎ高校生フォーラム プログラム

開催日 令和8年1月24日(土)

会場 宮城県行政庁舎 2階 講堂、1階 県民ロビー

参加者 生徒182名、引率教員75名、学校関係者37名、保護者8名、その他3名

総合司会 泉館山高等学校 2年 佐藤 結月さん

日 程

12:00～12:10 開会行事

挨拶 泉松陵高等学校 2年 三浦 愛華さん
宮城県教育委員会 佐藤 靖彦 教育長

12:10～13:20 代表校発表

①「平和を考える～南郷高校と戦争の歴史から～」
南郷高等学校 2年 芳賀 紗那さん
2年 京極 未々愛さん

②「戦争を伝える」
名取北高等学校 2年 大保 颯槻さん
2年 加藤 大介さん

③「パレスチナ問題～共存のためにできること～」
仙台第二高等学校 1年 是川 咲和さん

④「伝えることの大切さ～戦争体験者のインタビューを通して考えたこと～」
泉館山高等学校 2年 阿部 莉果さん
2年 三浦 麻央さん
2年 菊池 玲奈さん

⑤「私たちの世代が戦争の記憶を未来に繋ぐためには」
宮城野高等学校 2年 鹿野 松太郎さん
1年 加藤 瑛大さん

13:30～14:20 ポスターセッション (全校)

戦後80年の節目の年に、戦争の悲惨な現実や戦後の復興の歩み、世界の諸地域で起きている紛争等を取り上げながら、次代を担っていく高校生として、平和な社会を実現するために考えたことなどを発表した。

14:30～15:35 パネルディスカッション

コーディネーター

古川高等学校 2年 志田 朔大さん

パネリスト

宮城第一高等学校 2年 暮石 和子さん

中新田高等学校 2年 石川 杏奈さん

石巻高等学校 2年 阿部 建虎さん

- ・「平和な社会の実現に向けて、私たちができること」をテーマとし、パネリストが議論を行った。平和な社会の実現に向けて高校生はどのような役割を果たすことができると思うか、議論を深めた。
- ・中盤に、会場内の高校生を6～8人程度の26グループに分け、グループディスカッションを行った。各グループで出た意見は、口頭発表に加え、オンライン共有ツールを活用してスクリーン上に表示し、会場全体で共有した。

15:35～15:40 閉会行事

挨拶 仙台第一高等学校 2年 小山 凜さん

<閉会挨拶>

まずはじめに、今回、私たち高校生が戦争や平和について考え、意見を交換できるよう、場とテーマを設けてくださった宮城県教育委員会の先生方、そして、ここに集まり、それぞれの活動や思いを共有し合えた県内75校の皆さんに心から感謝いたします。

今回私たちは、「平和な社会の実現に向けて、私たちにできること」というテーマのもと、それぞれの学校の特徴や良さを活かし、時間をかけて戦争や平和について考えてきました。今日の発表では、演劇や絵画などによって、戦争を伝えていこうというものがあったり、仙台空襲や戦時中の仙台について言及したものがあったりと、芸術を用いた伝承や、宮城県の高校生だからこそその視点が、とても新鮮で、改めて平和の大切さを実感しました。ほとんどの発表で耳にしたのが、「戦争を伝える」「忘れない」という言葉です。多くの高校生がこの考えを持つことは、戦争をしない社会への第一歩になったと感じています。

一高のポスターは、戦争文学における情報統制を取り上げ、創作物や表現が民衆に与える影響や、社会の価値観を作った事例を研究し、まとめたものでした。

皆さんの中には、正直、研究をする中で、「めんどくさいな」とか「戦争が良くないことだなんて、知ってるよ」と思った人がいるのではないのでしょうか。私も初めはそうでした。レポートなどの提出物が多い上、戦争文学という、敬遠しがちな文学について研究するのが、とても大変だったからです。しかし、研究を進めていくうちに、戦争が良くないと「知っている」だけでは、平和な社会は実現できないのだと思うようになりました。

ダメだとわかっていながらやってしまうこと、例えば、テスト期間にスマホで時間を浪費してしまったりとか、宿題を後回しにしてしまったりというようなことがあると思います。その結果、痛い目に遭ったことがあるでしょう。そしてその時、「次は改善しよう」と、考えたと思います。それを次まで憶えていれば、同じ過ちは繰り返さないよう努力するし、忘れてしまっていたら、同じことを繰り返してしまっただけだと思います。

戦争も同じだと思うのです。日本は、第二次世界大戦で、数々の凄惨な状況を経験しています。それを覚えていて、もう二度と繰り返さないと心に誓うことが必要だと私は考えます。しかし、日本は人ではなく国ですから、心もなければ脳もありません。代わりにあるのは、ここにいる皆さんの心や脳です。ここにいるひとりひとりが、憶えて、心に刻んでいかなければならないのです。

本日の高校生フォーラムは、そのための場になったと思います。

今、私たちは、当たり前が続いてきた平和な暮らしが、ある日突然壊されて、非日常に放り込まれる人々の姿をリアルタイムで見えています。しかし、画面に映る町は何千キロも離れた遠い場所です。瓦礫の山や傷つく人々を見ていると、自分の無力さを痛感させられます。

しかし、今日この場に集った私たちは、自分たち高校生にもできることがあると知りました。高校生ならではの多様な視点で戦争や平和を捉え、調べ、考え、共有することは、平和な世界や社会を大切にする価値観を作り広げること、80年前の悲劇を繰り返さないことにつながると実感できました。なにより、戦争の悲惨さを知り平和を求める同じ高校生がこんなに多くいることに勇気づけられました。

今も世界で続く戦争が一日も早く終わることを祈りながら、自分たちこそが平和な社会を作っていくことを、ここにいる皆さんと共に強く決意して、閉会の挨拶といたします。

事後アンケート 集計結果

- 1 対 象 参加生徒、引率教員等（当日参加した教員含む）、その他（保護者等）
- 2 調査方法 Web上のアンケートフォーム（Google Forms）
- 3 回答方法 パンフレットに掲載した2次元コードを用いて、Web上のアンケートフォームにより回答する。

4 調査項目

1. あなたに該当するものを1つ選んでください。
① 高校生 ② 教員 ③ その他
2. 本日の「みやぎ高校生フォーラム」全体について、該当するものを1つ選んでください。
① とてもよかった
② よかった
③ あまりよくなかった
④ よくなかった
※ 2.～5.は同一の選択枝
3. 「代表校発表」について、該当するものを1つ選んでください。
4. 「ポスターセッション（全校）」について、該当するものを1つ選んでください。
5. 「パネルディスカッション」について、該当するものを1つ選んでください。
6. 【代表校発表①】南郷高校の発表について、感じたことや発表者へのメッセージをお書きください。
7. 【代表校発表②】名取北高校の発表について、感じたことや発表者へのメッセージをお書きください。
8. 【代表校発表③】仙台第二高校の発表について、感じたことや発表者へのメッセージをお書きください。
9. 【代表校発表④】泉館山高校の発表について、感じたことや発表者へのメッセージをお書きください。
10. 【代表校発表⑤】宮城野高校の発表について、感じたことや発表者へのメッセージをお書きください。
11. <高校生への質問> 本日の「みやぎ高校生フォーラム」に参加して、考え方が変わったことや、今後の意気込みについてお書きください。
12. <先生方への質問> 御自分の学校における平和教育の取組に関する気づきをお書きください。

5 回収率

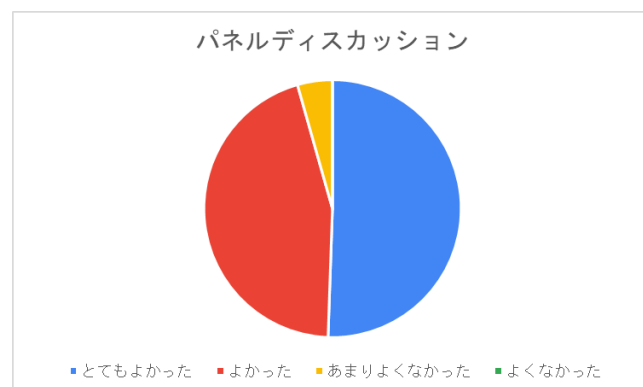
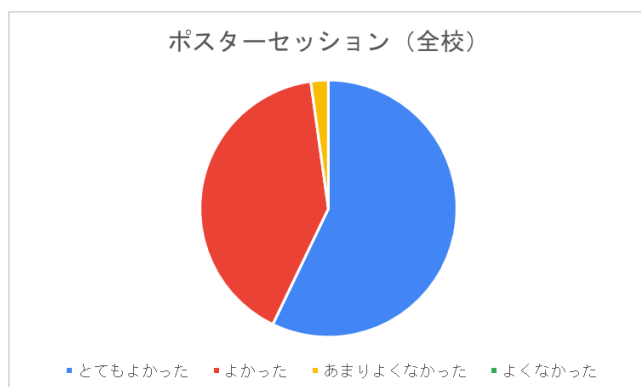
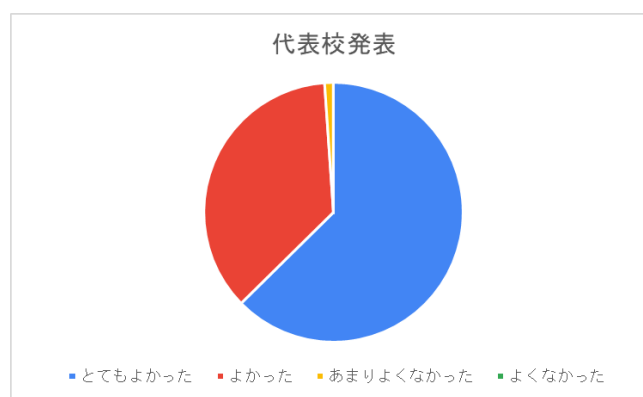
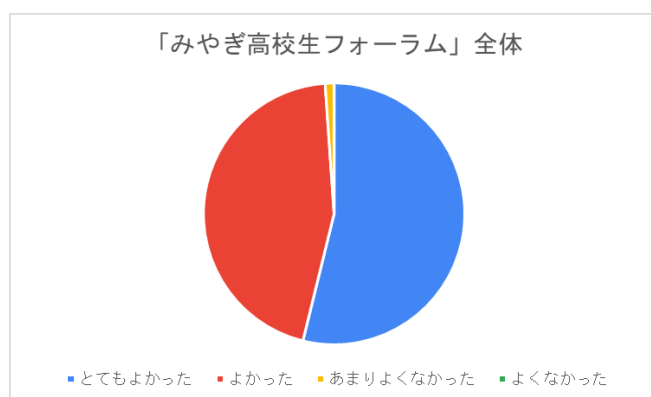
| | 申込 | 参加者数 | 提出数 | 回収率 |
|-----|-----|------|-----|-------|
| 生徒 | 197 | 182 | 55 | 30.2% |
| 教員 | 72 | 112 | 36 | 32.1% |
| その他 | 0 | 11 | 0 | 0.0% |
| 計 | 269 | 305 | 91 | 29.8% |

6 集計結果

(1) 質問項目 2. ~5. について

| | 高校生 | | | | | 教員 | | | | |
|-------------|---------|------|-----------|--------|----|---------|------|-----------|--------|----|
| | とてもよかった | よかった | あまりよくなかった | よくなかった | 計 | とてもよかった | よかった | あまりよくなかった | よくなかった | 計 |
| 高校生フォーラム全体 | 38 | 17 | 0 | 0 | 55 | 11 | 24 | 1 | 0 | 36 |
| 代表校発表 | 42 | 12 | 1 | 0 | 55 | 15 | 21 | 0 | 0 | 36 |
| ポスターセッション | 42 | 13 | 0 | 0 | 55 | 10 | 24 | 2 | 0 | 36 |
| パネルディスカッション | 38 | 15 | 2 | 0 | 55 | 8 | 26 | 2 | 0 | 36 |

<質問項目 2. ~5. 高校生・教員合計のグラフ>



(2) 質問項目 6. 「代表校発表①南郷高校の発表」について (抜粋)

(生徒)

- 特攻隊や集団自決という今では考えられない、残酷な出来事を忘れてはいけないと改めて思いました。また、目を逸らしたくなる現実を伝えようという気持ちが伝わりました。
- 同じ県北に位置する南郷高校に、満州開拓に関連する歴史があるということに驚いた。自分が特攻隊だったらなど、いろいろ考えさせられる発表でした。
- 南郷地域の悲しい過去について学ぶことができました。佐々木さんの戦争の遺品を公開してくださっている所へ行きたいと思いました。
- 高校で戦争について考える会があるのはとてもいい機会だと思いました。また同じ年代の特攻隊の人たちの気持ちを考えるととても胸が苦しくなりました。これからも継承して行ってほしいです。

(教員)

- 他者の経験を自分ごととして捉えて、考えるしかないのが戦争という経験したことのないテーマに避けては通れないことだと思いますが、そこで高校生、また我々戦争を経験したことない世代が考えるべきことをしっかりと伝えてくれたように感じます。最初の発表でしたが立派につとめており、感動すら覚えました。
- 自分の学校や地域の歴史を紐解き、戦争や平和について考える過程がとても丁寧でした。生徒も自分の学校はどうなのだろう、という意識が芽生えていたようでした。
- 南郷地区と太平洋戦争についての歴史について、当時の戦争の様子をリアルに伝えていた。同世代の特攻隊の話など、現代と当時を比較しており真剣さが伝わってきた。

(3) 質問項目 7. 「代表校発表②名取北高校の発表」について (抜粋)

(生徒)

- 演劇を通して歴史を語り継ぐ活動をぜひ続けて欲しいと感じました。名取北高校さんの演劇を拝見したことがあるのですが、観客一人一人に刺さるような演技でとても感動しました。
- 演劇という視点から、戦争を見るという、貴重な経験が出来た事で、戦争時の人々の感情について、考えるきっかけになりました。
- 戦争を人の1人の人生として他とは違う視点で捉え、演劇で心情を考え、それらの活動を継承するという、その団体ならではの活動がすごくいいと思いました。
- ひめゆり学徒隊という言葉は聞いた事がありましたが、詳しくは知りませんでした。この発表を聞き、私達もあの時代に生きていたらと考えるととても怖く感じます。今も戦争は世界で起きているという現実を受け止め、これからも活動していきたいです。

(教員)

- 演劇部ならではの方法で「自分ごと」化できていたように感じます。自分の活動を通して平和に向かって行こうという意志が感じられました。今後名取北高校の演劇部にそういった「文化」根付いて欲しいと感じました。応援しています。

- 北高演劇部 OB でちょうど挙げてくれていた作品を作っていたころの世代だったので、今回後輩たちが語り継いでくれていること、そこから様々なことを考えてくれていたことにとっても嬉しく思いました！作品が持つパワーと影響力というのがぎゅっと詰まった発表だったと思います。これからも頑張ってください！
- 戦争の恐ろしさを伝えていく方法は本当にたくさんあるなど感じた。ただ発表原稿を読み上げるのではなく、伝えようする姿勢が強く感じられた。発表お疲れ様でした。

(4) 質問項目 8. 「代表校発表③仙台第二高校の発表」について（抜粋）

(生徒)

- パレスチナの問題や、似た問題の解決例などを示すことで具体的なビジョンが見えて考えるきっかけになった。
- 戦争が起きる理由は色々だと感じました。武力ではなく、話し合いで解決できるよう、私たちができることをして行けたら良いと思います。また、情報を知り、現実を目に向け、考えていくことができたら良いと思いました。
- 現状ある課題をイギリスなど他の解決した例を提示して、それから和解へ繋げようとする考え方がすごく参考になります。また、募金活動をただ行うなどではなく、それが人材育成に繋がるといった具体的な情報がよく述べられていて聞いていて面白かったです。
- 現在も続いているパレスチナ問題についてですが、自分にとってパレスチナ問題は世界的に見ても深刻な問題だと認識しており、発表を聞いて武力ではなく対話での解決を目指していきたいという気持ちが伝わりました。

(教員)

- 特別な活動をしていただけではないからこそ、等身大の高校生ができることを発表していたと思います。「自分ごと」化できており、まず歴史好きな自身だからこそ作られた「問い」をスタートに探究活動に臨んでおり、だからこそ自分の言葉で自分の考えを発表していたように見えています。素晴らしい発表でした。
- ポスターも聞きに行かせていただきました！難しい題材を整理して問いを投げかけてくれた重要な役割だったと思います。太平洋戦争から考えれば今は戦後ですが、世界規模で見たら今も戦時中かもしれませぬ。広い視点でさまざまな角度から考える重要性を改めて感じました。
- 本当に歴史に興味があるんだな、というのが発表からも伝わってきました。「類似例の解決状況を確認→打開策を検討」という流れが綺麗で1年生1人で研究したとは思えないクオリティでした。

(5) 質問項目 9. 「代表校発表④泉館山高校の発表」について（抜粋）

（生徒）

- 地元の方に戦争の体験を聞く場があるのは素晴らしいと思いました。防災が平和に繋がるという新たな視点を学びました。
- ありえない日常があたり前になってしまっていたこと、地域と関わり伝えることの大切さを学ぶことができました。防災にも平和にも繋がる地域と関わることを続けて欲しいと思いました。
- 命を守るという本来当たり前の行動を行わない異常な環境が戦争なのだと思いました。「ありえない日常」「戦争は無くならないと思う」この言葉は重く深いものだと実感しました。戦争を無くせるならばできることをしていこうと思える発表でした。
- 戦争体験者へのインタビューを通して考えることは、平和について考えることにおいてとても重要なことだと思います。体験者から直接聞くことは凄く大事なことなので参考になりました。

（教員）

- 防災と平和の共通点、世界の平和と地域活動の共通点とを見出し論じていたのがとてもユニークな視点でした！リアルな体験談をこうしてしっかり残してくれて本当にありがとうございます。
- 「ありえない日常」について話しているインタビューが衝撃的でした。SNSなどでコミュニケーションをとることが普通になっているいま、改めて「直接」伝えることの重要性を感じられた気がします。
- 語り継いでくださる方々は高齢化してきていますので、インタビューも貴重な機会になってきているなあと感じました。生の声を聞けるのはとても貴重なことだと思うので、これからも続けてほしいなと思いました。お疲れさまでした。

(6) 質問項目 10. 「代表校発表⑤宮城野高校の発表」について（抜粋）

（生徒）

- 視点がおもしろくて、自分たちにしかできないことを起点にして戦争についての考えを広げている点ですごく興味を持ってお話を聞くことができました。
- 戦争体験を聴く、そしてそれを描く。中々ない体験だったと思います。自分たちが体験したことがないことを描くのは難しく、ものすごく大変で責任を感じるものだったと思います。
- 状況を鮮明に描くからこそ教科書などとは違い、文字だけで理解するのではなく、その絵の特徴を理解することでリアルな戦争をよく知り、記憶が共有されたようなとても伝わりやすかったです。また、聞く側の人も再現する力をとられるためとても重要だと思いました。
- 戦争画を描くことはとても難しいことだったと思います。ですが、当時の違和感や苦しさが伝わってきました。聞き手の姿勢が大切というところに共感しました。

(教員)

- 戦争画という「伝える」手段があるのだという驚きがありました。絵を通して戦争について伝えるための工夫や葛藤が、生徒たちの戦争への意識や理解をより深まるのだと学ばせていただきました。
- 素晴らしい発表、素晴らしい取り組みだったと感じました。「自分ごと」化できていて、さらに学校ならではの環境を活かした、素晴らしい活動だったと思いました。まさに「今の高校生にできること、今の高校生だからこそできること」でした。私も勉強になりました。
- 描くこと、語ること、演じることなど表現すること自体への葛藤や学びとが語られて、今回この場で話してくれたことにとっても意義があったと感じます。描き出すことによって「描かれなかったもの」が同時に生まれてしまうことやその偏りについて言及してくれたのがとても重要だったと感じました。そして何より素敵な作品でした。これからも頑張ってください！

(7) 質問項目 11. <生徒に対する質問> フォーラムに参加して考え方が変わったことや、今後の意気込みについて (抜粋)

- もっと自分たちができることを考えることでもっとよくなると思った。パネルディスカッションは最初話を聞くだけであまり楽しくはなかった。でもその後の班での話し合いはとても有意義だったし、実際に考えを話し合う時間があったのはとてもいいなと思った。ポスターセッションも意外と身近なところに戦争について考えられるものがあるということを知った。自分の地域にもそのような場所があるか、話して行きたいと思った。お互いに話すことで理解が深まり、楽しくテーマについて話せる。他校で行っている活動を見習い、自分の高校でもしてみたい。今日考えたことを考えたで済ませず、しっかり行動に移して行きたい！
- 私自身、高校生同士で話し合う国際的な研修会や JICA の活動に参加していますが、それとはまた違った話し合いの展開の仕方、各校の特徴を活かした発表になっていて合同に開催する意義を感じることができました。大変充実した 1 日になりました。機会があればまた参加したいと思える時間でした。ありがとうございました。
- 今回の高校生フォーラムを通して、考えたのは、平和のためには自分ができることから行動してみる、ということだと、僕は思います、なぜかと言うと、他の学校の方々の発言で多く共通していた部分で、語り継ぐ、というものがありました、それも含めて、全ての世代が自分にできることをやれば、平和への道筋は、案外遠くないのではないかと思います。
- 「戦争」とひとつの言葉で表してしまうけれど、背景も状況もみんな違うことに改めて気づいたし、何より戦争を経験していない今の私たちの捉え方もみんな違って、その価値観を理解することが大切だと実感しました。
- 学校でも意見交換や戦争について考える機会を作ろうと思う。

- 今まで戦争の経験を語り継ぐ手段は講話くらいしか思い浮かばなかったので、今回のフォーラムで絵画や演劇といった様々な方法があることを知りました。また、若者が主体となって戦争や平和について考えて行くことがこれからの社会に必要なことだと学びました。
- 今まで戦争に関心があったけど、今回の高校生フォーラムに参加し今まで以上に関心を持つて、自分たちが今何をすべきなのかを考えられた。
- 私は歴史が苦手なで、今回の平和についても、私が語れるのかどうか不安でしたが、勇気を出して参加することができました。参加して変わったことは、高校生にもできることはたくさんあるということです。SNSの利用や、ボランティアに参加すること、そして何より「自信をもって挑戦すること」が高校生だからこそできることだと思いました。これからの人生もさまざまな経験ができるように、自信を持って積極的に行動したいと思います。
- 今まで目を向けてこなかった現実をきちんと受け止め、今後も活動していきたいと思っています。だからこそ、宮城野高校さんの発表はとても胸に刺さるものでした。自分ができることをしていく、大切な事だとより思いました。
- 他の学校の取り組みを見て、自分たちの学校は学校としては何もやっていないことに気づき、今後は戦争の悲惨さなどを伝えていく行事を開催したいと思いました。
- 去年とはかなり違う内容で戸惑いもあったが、普段触れることのない戦争という内容について、理解を深めることができ、とてもためになった。今後は、様々な伝承活動に関わっていきたい。
- ただ単に募金をしようとか記録を後世に伝えるとかではなく何の目的を持って何のために行えるのか、やるべきことをしっかり理解できたので実行に向けてみんな協力して進めていきたいです。
- このフォーラムまであまり戦争について知識も少なかったが、ここまで戦争、平和について考えたのは初めてだと思う。他校の取り組みを聞いて、得られるものも多かったので、ぜひ自分の学校でも行っていければと思う。
- 本日の「みやぎ高校生フォーラム」に参加して、1つのテーマでたくさんの考えや意見がでて、戦争を体験した人からお話を聞いて終わりではなく、私たち高校生がどう後世へ伝えるかが大切であることを学んだので、今後はどう伝えていくのかを考えていきたいです。
- たくさんの質問していただき自分たちの課題やより深められるところが見えてきたのでよかったです。これからも地域の方々と関わりながら平和についても考えていきたいです。

(8) 質問項目 12. <先生方に対する質問> 学校における平和教育の取組に関する気づきについて（抜粋）

- 各教科で授業の際に触れるくらいかと思われます。一層意識して授業を構成していこうと思いました。節目の年であった今年度だからこそ強く考え直そうと思われました。
- 今回行った平和学習も、今年で終わることなく、形を変えながら続けていきたいと思いました。
- 最後のディスカッションでいい話ができていることにとっても嬉しく思いました。しっかり学校に持ち帰れるようにがんばります。
- 歴史など、特定の授業における平和教育が中心ではないかと思う。ただ、今回のフォーラムを通して、学校の歴史や地域の歴史に目を向けていくことの大切さを再認識し、今度は教科にかかわらず歴史や地域と結びついた取り組みをしたいと思いました。
- ポスターセッションに向けて準備を進めていく中で、非常時に生かすことのできる学習（今回は炊き出し訓練を取り上げた）を生徒たちは行っているが、どれほどの生徒が戦争を想定した行動ができているのか疑問に思った。声がけをして気付かせ、考え方を広げさせていきたい。
- 授業において体系的に取り組むことができました。生徒たちの目線で平和について考えることができたことが良かったと思います。
- この機会のおかげで知ることができたことがあった上に、これまでよりもより深く戦争について考えを深めることができた。戦後 80 年という節目に限らずやれるといいと思う。
- 創立以来初めて実施した海外修学旅行に参加した生徒たちでしたので旅行中に考えさせることができました。単なる旅行で終わることなく平和を保っている理由について考えるきっかけにできたのは非常に有り難かったです。
- 今回のテーマで平和について改めて生徒と一緒に考える時間ができ、今のこの平和な生活を戦争で犠牲になった方々の分までしっかり守っていかなければならないと強く思った。生徒と考えるきっかけを作っていただき、ありがとうございました。
- 一口に平和教育というと難しいと感じていたが、様々な高校の活動を見ることで、どのように取り組んでいくかの例をたくさん見ることができた。特に、自分の高校ならではの活動をしているところは、生徒も戦争や平和を自分事として捉え、考えている印象があったため、そういった活動を考えていこうと思った。
- 平和な日常が当たり前になってきており、戦争の過去については生徒自身も詳しく理解していなかった。しかし、アンケートをとると真剣に取り組む、自ら考える姿を見ることができた。また相手に伝えるために、模造紙だけではなく、紙芝居を活用する工夫も見られた。戦争体験者が日本では少ない、しかし、各国では紛争などが継続的にあることを生徒も知ることができ、私自身も深く考える良い機会になった。

- 本校の生徒にも、地域の歴史を継承していかなければならないと感じた。また、郷土資料館との連携も行なっていきたい。
- 平和教育と言っても様々な形があり、分野にこだわらず考えてみる事が大切で、生徒も活動を通して、自分で学びに繋げることができる
- 一人一人が平和について意識し、考えなければいけないということを改めて実感した。また、戦争や平和について考える機会を作ることが教育者として重要であると感じた。
- フォーラムに参加してみて、地域ごとに特色ある平和教育をしているなど感じた。本校の平和教育について、これといった特色ある活動ができていないことがわかったので、取り組めるところから取り組んでいきたい。
- 平和教育や東日本大震災の記憶・記録の伝承は私たち教員の使命でもあると考えています。だからこそ、長い時間をかけて計画的に行うべきだと感じました。今回は時間も少なく、変更点等も多かったため、完成させることでいっぱいだった感がどうしても残ってしまいました。生徒たちにとっても貴重な経験にはなりました。今回の発表は管理職にも話をし、来年度の新生へ発表など企画にも繋げていきたいと考えています。

グループディスカッションで出された意見

◎グループディスカッションの大テーマ

「平和な社会の実現に向けて、私たちができること」

◎グループディスカッションの小テーマ

「平和な社会の実現には何が必要か？」

「次代を担っていく高校生として、学習・経験しておくべきことは何か？」

| グループ | グループディスカッションで出された意見 |
|------|--|
| A | <p>平和な社会というのは相互理解がある状態だと思いました。例えばオーストラリアでは様々な人種の方々がいましたが、現地の人々はその方々に差別なく、オープンな態度で分け隔てなく仲良くしてくれたそうです。各個性の尊重が成され、相互理解のある状態、つまり差別のない社会というのが平和形成に役立つと考えました。</p> |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールは、多民族国家で、いろいろな言葉、文化がある。一度海外や、違う文化について考えることがある。土台をきちんとさせるために、教育をしっかり行う。教科書を見て学ぶのと、直接聞くのは、リアリティで大きな差がある。 ・小さい時から、学べたらいい。小さい時の価値観は大きな影響を与える。 ・海外の人々と交流する。募金や、知ること。知ってもらう→SNSで拡散、伝えたいことは、直接伝える。伝えたいことを、ホームページで伝える。時と場合に応じて。芸術を使って、伝えることや、知れることもある。 |
| C | <p>小テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平和な社会の実現～ <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いやりの心。 ・今から社会を作っていく人たちで交流会を開き、話し合いの場を設ける。 ・自分の人間性を主張する。 ・隣の人から理解していく。小さい所から。 ●次代を担っていく～ <ul style="list-style-type: none"> ・話を直接聞く。 ・ネット上で、自分達の国だけでなく他の国にも興味を持つ。 ・異なる考えを否定せずに、尊重する。 ・外国人と話すために、英語をしっかりと学ぶ。コミュニケーション力を伸ばす。 ・聞いた話を自分なりに分析する力。 ・留学などをして、価値観を共有する。 ・自分の意見をしっかりと主張、発信する。 ・平和を考える上で、被害者と主張して相手に押し付けるのではなく、自分達をしっかりと理解して、相手と対等な立場を持つ。 ・映画や小説などを通して、学ぶ。 |

| | |
|---|--|
| D | <p>・ただの授業だと関心を持たず、戦争への理解が疎かになってしまうので地域の活動や歌、ダンス、演劇など身近なものなら自ら関心を持って平和の実現に向けて行動することができると思った。</p> <p>・学校で行われる羽根募金の活動やペットボトルキャップの回収、コンビニにある小さい募金活動などにもっと積極的になって協力することで一人一人の些細な行動でも戦争孤児や難民の人たちをひとりでも多く救うことができるのではないだろうか。</p> |
| E | <p>国際機関を活用したり、留学したりするなど、外の世界のことを知ることが大事だと思う。インターネットの普及によってハロートークなどの通話アプリや、VRCなどゲームでも海外の人と交流ができると思う。</p> |
| F | <p>戦争や政治に対する正確な知識を学び、自分の意見を持ち、他人の意見に流されないようにする。SNSのありふれた情報を鵜呑みにしない。自分の興味があることを調べたり、興味が無いものでも意欲的に学び、新たな視点を見つけることが大事。他の国の文化や歴史を知り、お互いを尊重し合う。議論などで自分の意見を積極的に挙げ、考えを深める。</p> |
| G | <p>今の自分たちを見つめ直し、自分達の意見だけでなく相手の意見にも耳を傾ける。相手の良いところを自分達にも取り入れてみる。今回の高校生フォーラムで聞いたポスターセッションなどで自分の学校がやっていない行事を取り入れ、平和について発信していく。</p> |
| H | <p>まず、地域についての出来事やもっと地域に「こうしてほしい」という内容をそれぞれ出した。名取では閑上が近くにあり、海沿いが近いため、危険である。そのため、安全のための避難所（高台）増やした方が良いと思う。中・高でできることとして、原爆ドームなどの建物や資料館を見に行き戦争の悲惨さや切なさを知るのが良いと思う。自分が住んでいる近くの避難場所や避難経路を確認したり、それぞれの対策が必要だと感じた。高校では総合的な探究の授業があるため、そこで、体験した人のことを調べ、高校生が1番身近であるSNSで発信するのが良いと思った。SNSで発信するときに気をつけることとして正しく情報を調べることが大切だと思った。</p> |
| I | <p>地域などのように小さなところだと、個人から寄付や募金を始めやすく集めやすいので行うのがいいと思った。また、代表校発表であった演劇や絵画など小さな子供からお年寄りの方まで幅広い方に知ってもらえるものなどを行って「つたえる」ということを行うのがいいと思った。新聞などにその内容などを書いてはるのがいいと思った。</p> |

| | |
|---|---|
| J | <p>平和な社会の実現のために、海外の人々が歴史に対して切り替えて進むべきだという意見があるが、歴史を知らなければ何も知らないままで生きていくことになるため、現実としてその歴史を受け入れて前へ進んでいく必要がある。また、人々の意識を変えることが必要だとも考える。戦争を体験していない人は、戦争に対して他人事のように感じてしまうことがあるため、人々の意識を変え、自分のこととして考える必要があると考える。さらに、ルールを決めて人の行動を制限するがわけではなく、一つのゴールを決めて色々な方向からそのゴールへ向かっていくべきではないだろうか。</p> |
| K | <ul style="list-style-type: none"> ・何が、どんなことが起こったのか過去を知る、背景を知ることによって学べるが増えるはずなので「知る」が大事。 ・日本視点だけで考えると日本にとっての平和になってしまい、それは争いに繋がりにかからないから、他の国がどう考え学んでいるか理解するのも大事だ。 ・文献調査などでは限界があるから、話を聞くだとか実際の資料を見るのも大事。 ・知ること、争いがないだけでない戦争が起きている地域でも他の国が支援などをして希望を持たせる。 ・戦争を平和的に解決するためには話し合いが必要だが、現実的に考えると話し合いの機会を作るのは難しい。なのでまず戦争を起こさないことが何より大切。 ・教科書には原爆で多くの日本人が亡くなったことなどが大々的に書かれている。だが日本が植民地化した国などについてはそこまで深く書かれておらず、戦争についての日本の立場の印象がそのせいで偏ってしまっていると思う。それを改善することで正しい歴史を継承できると思う。 |
| L | <p>現地に行って人の話を聞いたりして当時のことを自分の目で知り、それを SNS を最大限に活用してより若い世代に伝えていく。また色々な高校と意見交換して色々な考えを知ることによって、平和を考えるきっかけになったり、平和に対する考えの幅を深めることができると思う。</p> |
| M | <p>平和な社会の実現に向けて、偏見をなくすことが大切だと考えていて、そのための交流会があるといいと考える。交流会は直接会うだけでなくオンラインでの対面、グループチャットでの会話であっても交流になると思います。そして、一人一人の価値観の理解が大切だと感じました。高校生である私たちにできることは、被害の現状を知ることであったり、異文化を知ったりして、それを自分の中で留めておらずに周りに広げることが大切だと思います。交流会に積極的に参加することも経験の1つになり学びに繋がると感じました。</p> |

| | |
|---|---|
| N | <ul style="list-style-type: none"> ・募金はどこかを經由ではなく直接行くと実感ややりがいを感じる。 ・高校生フォーラムの様なイベントがあることで戦争などについて考えることができるが参加していない人はとっかかりが少ないため、イベントを増やすことで多方面に語り部を広げられるのではないか。 ・知識として蓄えるだけでなく action に変換して物事を考える。 ・フォーラムの様に各校が集まるだけでなく、個々の学校に戦争について考えるような機会があってもいいのではないか。 ・私なりの解釈が大切だと思う |
| O | <ul style="list-style-type: none"> ・戦争について考えがある。これからいろんなことをしていく。地域の自立と同じなのが、広瀬高校。利府高校エコキャップや今回のためにちょうど資料館に行ってお考えたり学んだりした。また募金活動をした。平和社会の実現に向けて、必要なものは募金活動なので、設定的な参加や競争等のつながりを大切にすること。海外の人との関わり合いが大切で、ハロートークを使った意見の公開や価値観の差を学ぶことは大切。実際の経験実際の経験や人の考えを聞く。西日本では、終戦の日に学校に集まって、みんなで戦争の話聞くなどがあった。こっちには無いよね。 ・東日本では原発や新座の話が多いけど、そういう話を交えて戦争の話もしていけば今後つながっていけるんじゃないかと思います。東日本ではあまり戦争の話はなくて、津波とか安心な子が多いけど、九州だと戦争の話が学校などであって、実際に空襲に遭われた人や戦争に遭った人、戦った人たちなどが学校に来て、その話をみんなで聞いたり、具体的な話を聞いたりして、歴史をつないで活動している。修学旅行では、長崎を訪れて原爆資料館に行ったり、考えを持ったりしたから、東北の私たちも、実際に人と話を聞いたりする活動を学校としてや地域として行っていく必要があると感じました。 ・言語を学んだりトークをしたりするときに、言語がわからない時は翻訳をしたり、その壁を超える1歩が必要になってきて、国際的に自分の意見を交わして、お互いの価値観を理解して知見を上げたり、意識を広げたりしてやらないといけないことを考えることが必要だと思います。私たちにできる事は同じ目線を持って日本国内だけでなく、海外の人たちとも意見を交わしちゃっていくことが平和の一步だと思います。 |
| P | <p>平和な世界を実現する為に何が出来る？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように伝えていくのかというのが重要。授業内とかで多視点で考える。形に残すということが大事。一つの視点で見るのではなく、世界の視点（多視点）から見てみる。 ・受け取る側→話者の話を聞く、受け取る姿勢を見せる。話す側→受け取る側に聞きやすく伝える。 ・可哀想で終わらせるのが一番の問題だし、無関心であるのも問題。 ・コミュニケーションをしていく+意見を出す・話す |

| | |
|---|---|
| Q | <ul style="list-style-type: none"> ・各国の良くない所を言い合い否定するのではなくそれを認めあう。 ・身近な所から知っていく。 ・若い人達に分かりやすいものを使って他国との絆を深め長期的な視点で良くしていく。 ・他人事にししないで自分事として考える。 ・身近な事でできること…言葉を大切にしていく。笑顔を作れる環境にしていく。 |
| R | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いを知り、認め合うこと、助け合ったり否定しないという、お互いのことを思った言動が大事だということ。平和のために理解し合い、戦争の経験を実際に聞いたり、講和を学校で開催したりして風化させないようにしないとイケない。 ・フォーラムで行ったことを学校でも行う。 ・宗教の違いを理解し合ったり、実際に戦争に関する映画を見て考えを深める。 |
| S | <p>平和な社会の実現に向けて、私たちができることとしては私たちのグループとしては格差なくお互いを認め合い、尊重し合えるようになるため、高校生の私たちができることとしては質の高い教育が必要だと考えました。そのために戦争に理解を深めたり、体験談を聞いたりなどしていかなければいけないと考えました。平等に向き合い、人を否定しないようになっていければいいとも考えました。</p> |
| T | <p>私にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他国の文化を理解する、尊重する ・関わった偉人について知る ・募金 ・ジェンダー、差別をなくす活動、選挙に参加する ・自分の子供、他の人に伝え続ける ・自主性をもつ→自分のことと捉えて進める |
| U | <p>学校の朝読書の時間を通じて昔起こった戦争や今起きている争いについての新聞を配布し、みんなに知ってもらおう。日本国内で起こった事件だけでなく、海外のニュースも活用して世界で起こっている出来事を知ってもらいたい。また、日本と他国の情勢を知ることによって平和について考える機会に繋げたい。</p> |
| V | <ul style="list-style-type: none"> ・交流を深めながら問題を解決する ・自分の興味を持ったことを調べ、周りに広げて多くの人に興味を持ってもらう ・昔使っていた勉強道具や雰囲気を知る ・道徳とは違うディスカッション ・過去ばかり見つめず、これからついて考え、次世代にたくす |

| | |
|---|--|
| W | <ul style="list-style-type: none"> ・まず、今まで起こった戦争や紛争について知ることが大切。 ・イベントや語り部活動への参加。 ・自分の意見を持ってそれを発信すること。 ・戦争などの大きなものではなく、些細な日常から人に思いやりを持って接し、人の輪、繋がりをもつ。 ・自分ができる簡単なことから始める。 ・いじめや過剰ないじりなど、妬みや嫉みで人を攻撃してしまうときはあるかもしれないから、攻撃する心をどう抑えて、どう関わっていくか自分で考える。 |
| X | <p>小テーマ（平和な社会の実現には何が必要か？）</p> <p>出た意見⇒平等、主張できる社会、喧嘩してもじゃんけんで解決できる、戦争が起こった理由を知る、VR 戦争体験、相手を理解する</p> <p>まとめた意見⇒みんな平等で主張ができる社会で喧嘩もなく、もし合った場合には例として上げるとじゃんけんやあみだくじ、話し合いで決める！そして相手を知ることが大切！戦争を知るためにはVRで体験することにより戦争がいかに残酷だったのがわかる！</p> |
| Y | <p>（小テーマ①）自分の意見をもつ、身近な人を大切にす、違いを認め合う→他の人を考えて行動する</p> <p>（小テーマ②）歴史を学び、実際に戦争などを経験した人から話を聞く、語り部活動戦争に関わる建物に行ってみる→歴史を学び、話を後世に繋げる</p> <p>（大テーマ）戦争について理解を深め、後世に伝える、伝え方は世代にあった伝え方をする</p> |
| Z | <p>私達が次世代に戦争を伝えていくには信ぴょう性が不十分であることが課題の一つだ。今の世代の高校生として、学習・経験できることは、今生きている被爆当事者の意見を聞き、記録を残すこと。その上で、違う視点で戦争について考え、知識を身につける必要があると考える。例えば、SNSの利用や、被爆地への訪問によって、次世代に自分たちが伝えられる力を身につけることが大事だと思う。</p> |